

2023年4月9日(日)

日本キリスト教団 **久宝教会**

第66巻第1号(通算3333号)

教会設立 1959年6月14日

〒581-0072

大阪府八尾市久宝寺6丁目7-10

TEL 072-992-2131 FAX 072-992-2135

郵便振替: 00980-5-212130 「日本基督教団久宝教会」

【集会案内】こどもの礼拝: 毎日曜 10:00-10:20 何かお悩みがありましたらご遠慮なくご相談ください  
主日礼拝: 毎日曜 10:30-11:30 小さい子どもたちも、いつでも歓迎いたします。

しゅうほう

# 週報

教会標語

かみさまがすべてのひととともにおられる  
ことを証していく教会



ホームページ「久宝教会」  
(ウェブサイト)

<http://www.koinonia.or.jp/kyuhokyokai>  
【連絡先(牛田)】090-9161-4027

[kyuho-church@koinonia.or.jp](mailto:kyuho-church@koinonia.or.jp)

私は知っている。／私を贖う方は生きておられ／後の日に塵の上に立たれる。(ヨブ記 19:25)

## イースターれいはい 復活日礼拝

《礼拝はインターネットで中継配信いたします。ホームページにてどなたでもご視聴いただけますので、それぞれの場所で共に礼拝をして頂きます》

ぜんそくもくとう  
前奏黙祷

まねごとばしへん  
招きの詞 詩編

へんせつ  
30編 4節

さんびかばん きゅうこん なか  
賛美歌 21-575番「球根の中には」(©JASRAC)

てんとうことばさんびばん  
点灯の詞と賛美 21-290番「おどり出る姿で」(©JASRAC)

せいしふくいんしよ  
聖書 ヨハネによる福音書 20章 1-18節

さんびかばん しゅふっかつ  
賛美歌 21-333番「主の復活、ハレルヤ」(1,2節) (©教団出版局)

ふっかつ  
復活のリタニー

みんな

さんびかばん しゅふっかつ  
賛美歌 21-333番「主の復活、ハレルヤ」(3,4節) (©教団出版局)

メッセージ 「前向きに生きる」

うしだただしぼくし  
牛田 匡 牧師

ユーカリスト  
聖餐

うしだただしぼくし  
牛田 匡 牧師

きょうどういのへいわ  
共同のお祈りと、平和のあいさつ

さんびかばん な  
賛美歌 21-524番「われらみ名により」(©著作権消滅)

しゅいの  
主の祈り

ささげもの  
献げ物 (\*)

はけんばん かみめぐう  
派遣 21-91番「神の恵みゆたかに受け」(1節のみ) (©JASRAC)

しゅくふ  
祝福

うしだただしぼくし  
牛田 匡 牧師

こうそ  
後奏 コーラス (21-40-6番) (©教団讚美歌委員会)

ほうこ  
報告 (4頁をご参照ください)

《お隣と間隔をあけて、席にお座りになったままで礼拝にご参加ください》

\* 「献げ物 (献金)」は参加費ではございません。

うけつけけんきんばこ  
受付に献金箱がございます。ご用意のある方のみ、お献げください。

招きの詞 詩編 30 編 4 節 (聖書協会共同訳©日本聖書協会)

4 主よ、あなたは私の魂を陰府から引き上げ

／墓穴に下る者の中から生かしてくださいました。

点灯の詞と賛美

点灯者① イエスさまの生涯をたどりましょう。(1本目に点灯)

イエスさまは家畜小屋で生まれ、飼い葉桶に寝かされました。

賛美歌

290番「おどり出る姿で」1節

点灯者② イエスさまは、漁師のペトロさんに「網を捨てて私についてきなさい」

と言われました。(2本目に点灯)

賛美歌

290番「おどり出る姿で」2節

点灯者③ イエスさまは、安息日に病気の人に手当てをされました。(3本目に点灯)

賛美歌

290番「おどり出る姿で」3節

点灯者④ イエスさまは、この世界の罪のために十字架に掛けられました。(4本目

に点灯)

賛美歌

290番「おどり出る姿で」4節

点灯者⑤ イエスさまは、復活されました(5本目に点灯)

みんな アーメン

賛美歌

290番「おどり出る姿で」5節(6本目に点灯)

聖書 ヨハネによる福音書 20 章 1-18 節(聖書協会共同訳©日本聖書協会)

1 週の初めの日、朝早く、まだ暗いうちに、マグダラのマリアは墓に行った。そして、墓から石が取りのけてあるのを見た。2 そこで、シモン・ペトロのところへ、また、イエスが愛しておられたもう一人の弟子のところへ走って行って、彼らに告げた。「誰かが主を墓から取り去りました。どこに置いたのか、分かりません。」3 そこで、ペトロともう一人の弟子は外に出て、墓へ行った。4 二人は一緒に走ったが、もう一人の弟子のほうが、ペトロより速く走って、先に墓に着いた。5 身をかがめて中をのぞくと、亜麻布が置いてあるのを見たが、中には入らなかった。6 続いて、シモン・ペトロも着いた。彼は墓に入り、亜麻布が置いてあるのを見た。7 イエスの頭を包んでいた覆いは、亜麻布と同じ所には置いてなく、離れた所に丸めてあった。8 それから、先に墓に着いたもう一人の弟子も中に入って来て、見て、信じた。9 イエスが死者の中から必ず復活されることを記した聖書の言葉を、二人はまだ理解していなかった

のである。<sup>10</sup>それから、この弟子たちは家に帰って行った。

<sup>11</sup>マリアは墓の外に立って泣いていた。泣きながら身をかがめて墓の中をのぞくと、<sup>12</sup>イエスの遺体の置いてあった所に、白い衣を着た二人の天使が、一人は頭の方に、一人は足の方に座っているのが見えた。<sup>13</sup>天使たちが、「女よ、なぜ泣いているのか」と言うと、マリアは言った。「誰かが私の主を取り去りました。どこに置いたのか、分かりません。」<sup>14</sup>こう言って後ろを振り向くと、イエスの立っておられるのが見えた。しかし、それがイエスだとは分からなかった。<sup>15</sup>イエスは言われた。「女よ、なぜ泣いているのか。誰を捜しているのか。」マリアは、園の番人だと思って言った。「あなたがあの方を運び去ったのでしたら、どこに置いたのか、どうぞ、おっしゃってください。私が、あの方を引き取ります。」<sup>16</sup>イエスが、「マリア」と言われると、彼女は振り向いて、ヘブライ語で、「ラボニ」と言った。「先生」という意味である。<sup>17</sup>イエスは言われた。「私に触れてはいけない。まだ父のもとへ上っていないのだから。私のきょうだいたちのところへ行って、こう言いなさい。『私の父であり、あなたがたの父である方、また、私の神であり、あなたがたの神である方のもとに私は上る』と。」<sup>18</sup>マグダラのマリアは弟子たちのところに行き、「私は主を見ました」と告げ、また、主から言われたことを伝えた。

(脚注 a：別訳「包んだときのままで置いてあった」、b：直訳「主よ」)

(参照：「子どもといっしょにイースター」『礼拝と音楽』臨時増刊 2001 年, 61-64 頁)

## 復活のリタニー

司式者 神さまは、イエスさまをよみがえらせてくださいました。

苦しみも死も、神さまの手に迎えられます。

みんな暗くて寒い冬が、春の光に包まれるように。

司式者 イエスさまを葬ったお墓に行く人たちが言いました。

重い石の扉を、誰が開けてくれるのでしょうか。

みんな石の扉はもう開いています。

司式者 復活のイエスさまに出会った人たちが言いました。

イエスさまは生きて働いておられます。

みんないのちの扉は、もう開いています。

(参照：『みんなで礼拝 アイディア集』日本キリスト教団出版局 2013 年, 31 頁)

《先週のメッセージより》4月2日 <sup>しゅろ</sup>棕櫚の主日（受難節第6主日）礼拝

「痛みに行く末」より

岡嶋千宙伝道師

聖書 イザヤ書 50章4-9節

「苦しみのなかで痛みを負っていても、苦難に耐え、神の救いを信じて歩もう」。福音書に収められたイエスの言葉（例.マタイ 5:39）、あるいはパウロの手紙の言葉（例.ロマ 5:3-5）とあいまって、本日の御言葉からは、そんな「キリスト教っぽい」メッセージが響いてきそう。けれど、少し立ち止まって考えてみたい。この言葉が語られた背景。そして、この言葉を発している人物の人となり。時代はバビロン捕囚の後期。祖国を失い、見知らぬ国での生活を強いられていた人々を前に、言葉を発した語り手は、見ていた、知っていた、聴いていた。当時の社会で、弱く、貧しく、小さくされていた人たちの存在を、声を、苦しみを。9節の後半には、聞き手に対する警告の意味合いを持つ言葉が記されているが、それが警告としてインパクトを持つのは、当時、その状況にあった人たちが実際にいたということだろう。「衣のように擦り切れ、虫が食い尽くした」。それは、痛みを抱えながら、逆らいたくても逆らえず、退きたくても退けず、差し出したいけれども差し出さざるをえず、これ以上耐えることができないけれども耐えざるをえない、そんな苦しみのなかを生きていた、弱く貧しくされた人たちの現実の姿。

語り手は単に見て知っただけではない。その人自身が、弱く貧しくされた一人だった。イザヤ書の別の箇所では記される語り手の人物像。「その姿は損なわれ、人のようではなく、姿形は人の子らとは違っていた」（52:14）。「軽蔑され、人々に見捨てられ、痛みの人で、病を知っていた。人々から顔を背けられるほど軽蔑され」（53:3）ていた。その人物が、自分と同じ境遇で苦しむ者たちの声を受けて、そのまなざしに見つめられて、言葉を紡ぐ。「我々は共に立とう。主なる神が助けてくださる。その方が近くにいる」

神の救いは、持てる人、余裕のある人、強さに満ち溢れた人たちの側からもたらされるものではない。弱く貧しくされた人たちの側から、その声が、姿が、命の輝きが満ちる場所から、救いの道が開かれていく。その道は、すでに開かれている。人となった神の子イエス。当時の社会で最も小さくされ、苦しみの中に生きる者たちと共にあったイエス。自らも苦しみと痛みを負い、十字架の重みを背負ったイエス。今、このとき、この場所で、イエスの声と言葉と共に、社会の中で、世界の中で、小さく、弱く貧しくされている人たちの声と言葉が響いている。その声と言葉、届いているだろうか。受けて止めているだろうか。応えているだろうか。イエスによって開かれた救いの道、共に歩んでいきたい。

毎週の「メッセージより」は、ウェブサイト等にも順次掲載されています。

ホームページ



Facebook



LINE 公式アカウント



◎ 先週の報告 (4月2日 棕櫚の主日礼拝)

礼拝出席 大人4名 献金 大人5,000円 中継動画再生数7回 感謝

◎次週 2023年4月16日(日)復活節第2主日礼拝

招きの詞 ヨハネの黙示録 19章 6b-8節

聖書 ルカによる福音書 24章 13-35節

メッセージ「なぜ暗い顔で？」水谷憲牧師

賛美歌 8番(©讚美歌委員会)、326番(©P.D.)、57番(©JASRAC)

礼拝後に、2023年度定期教会総会を開催いたします。

◎お知らせ

- ・一週間遅れの日程になりますが、次週4月15日(土)10時半~11時半ごろまで、子どもたちを対象とした「キッズ・イースター」の集まりを開催します。
- ・大阪府の新型コロナ警戒信号は「緑色」に変更され、マスクの着用も個人の判断に任せられるようになりました。引き続き感染症予防には留意しながら、それぞれの方が参加しやすい形で礼拝にご参加ください。「週報」や「メッセージ(全文)」はホームページからダウンロードしていただくことができます。中継録画のメッセージ部分のみをカットした動画を、YouTubeでご覧いただくことも可能です。

◎公告

次週4月16日(日)の礼拝後に、2023年度定期教会総会を開催いたします。議案は、以下のように予定しています。

【第1号議案：総会議長及び総会書記選出に関する件】

【第2号議案：組織】【第3号議案：2022年度教勢報告の承認に関する件】

【第4号議案：2022年度教会活動報告の承認に関する件】

【第5号議案：2022年度教会会計決算の承認に関する件】

【第6号議案：主任担任教師の任期更新(2024-26年度)に関する件】

【第7号議案：2023年度の主任・担任・協力教師への謝儀等に関する件】

【第8号議案：2023年度教会活動の計画の承認に関する件】

【第9号議案：2023年度教会会計予算の決定に関する件】

【第10号議案：2023年度CS会計予算の決定に関する件】

【第11号議案：役員(2023-24年度)選挙に関する件】

【第12号議案：教区総会出席議員の選出に関する件】

【第13号議案：その他に関する件】

教会員の皆様は、どうぞご予定ください。

◎ 次週以降の行事予定

	メッセージ	行事
4/16	水谷牧師	(第二好意庭 感謝祝福式・牛田牧師) 定期教会総会
4/23	牛田牧師	おにぎり支援
4/30	岡嶋伝道師	誕生者祝福式
5/7	牛田牧師	ユーカリスト・教会を考える会

